リレー随筆

大学生活を振り返り書き散らし

今村総合病院研修医一年目　小坂 真琴

今村総合病院初期研修医一年目の小坂真琴と申します。滋賀県大津市で生まれ育ち，兵庫県神戸市にある灘中・高に通い，東京大学で6年間学んだのちに今村総合病院での初期研修を開始しました。一つのテーマでこの分量を書き切る能力がなく，大学時代の話をバラバラとしたいと思います。脈絡がないですがご容赦ください。読んでくださった皆様に何か一つでも引っかかるものがあれば幸いに存じます。

教科書をゲームに

大学時代は，部活に所属せずいろんな課外活動に手を出しておりました。2年間の教養学部時代には，医学部の先輩から引き継いだDIORETS（ディオレッツ）というボードゲーム作りに取り組んでいました。ステロイドホルモンの合成過程をボードゲームにしたもので，妊娠，ストレス，低血圧などのライフイベントによって合成経路が開いてコレステロールを出発したコマがどんどん次の過程に進んでいき，ホルモンが合成されるゲームです。発案した先輩の着想が圧倒的で，引き継いだ自分達は細かなゲームバランスを考慮した調整やデザインがメインでしたが，文化祭で一般向けに出展した際には，小学生がホルモンの名前を「ポケモン的に」叫びながらカードを出す光景が印象的でした。結局力不足のためゲームとして商品化は叶わず終わってしまいましたが，「教科書をゲームにする」というコンセプトを引き継いでくれた後輩が全く別の感染症のゲームを作り，商品化にこぎつけたことは尊敬の念にたえません。この後医学の勉強は最初から最後まで低空飛行を続けましたが，副腎皮質ステロイドに関するところのみはめっぽう得意でした。DIORETS，逆から読むとSTEROIDです。

サンタの格好をして走る

3年生の時には，「東京グレートサンタラン」の学生代表として活動しました。サンタランは参加者がサンタの仮装をして走るチャリティーイベントで，参加費が小児科病棟の子どもたちのプレゼントとなります。サンタラン自体は，世界各地で行われていますが，大阪での10周年を記念して，初めて東京でも開催することになりました。初回の開催地は，木の伐採に関して賛否が渦巻いた明治神宮外苑でした。学生チームでは，どのように多くの人に参加してもらうか，どんなクリスマス会を企画するか中学生から大学生まで交えて会議を行いました。当日，たくさんのサンタが走る様子，そしてプレゼントをもらった小児科病棟の子ども達の喜ぶ様子はどちらも記憶に焼き付いています。チャリティランと言う意味では，新聞で拝見しただけですが，鹿児島で医学生も活躍している「ホワイトリボンラン」にも勝手に親近感を感じています。サンタラン開催の母体となったのは，inochi学生プロジェクトという医療系学生団体で，医療の課題について中高生と共に考え解決策を実行することを目標に活動しています。関西発祥で，関東での立ち上げの際に参加しましたが，その後金沢や徳島にも拠点を広げ，最近福岡にも上陸したと聞きました。いつか鹿児島の医学生も参画

してくれることを楽しみにしています。

相良知安とドイツ医学

前後して，東京大学総合博物館インターメディアテク（東京駅直結の商業施設・KITTE 内）でのギャラリートークも行いました。夥しい数の医学部教授の肖像画が企画展示されていたにも関わらず，芸術的見地からか説明書きは最小限に抑えられていました。これは勿体無い，先生方の人柄などを伝えるようなギャラリートークをしたら面白いのではないか，ということで同期3人とギャラリートークを行いました。イベントは盛況で，公式の音声アプリにも収載していただきました。ここで興味を持ったのが佐賀藩士・相良知安です。鳥羽伏見の戦いなどで治療にあたっていたウィリアム・ウィリスのイギリス医学を退け，ドイツ医学の導入を決定づけた人物です。夏休みに佐賀に行く機会があり，道端に相良知安の銅像を見つけた私は，佐賀新聞にその医学史の話を読者投稿しました。すると相良知安の子孫である相良さんから新聞社経由でご連絡をいただき，相良知安の最新情報を色々とご教示いただきました。これもまたインターメディアテクで紹介できたら，と思い新たな音声ガイドを作成しました（今もまだ専用アプリで聞くことができます）。コロナの流行により，相良さんと東京でお目にかかることはついにできませんでしたが，今の研修医同期のご実家と相良さんのご縁があったことから，鹿児島来訪の際にご一緒にお目にかかることができました。まさにご縁です。ちなみに，今村病院の創始者である今村源一郎先生は一時期東京中央郵便局（今，インターメディアテクのある建物）でアルバイトをしていたそうです。さらに，相良知安がドイツ医学導入を決定づけたことでウィリアム・ウィリスは東京を離れ鹿児島の地へ赴き，鹿児島大学医学部の前身を立ち上げることになります。

近江国の豊かな歴史

4年生の時には，中高生向けのサマースクール「滋賀キャンプ」にメンターとして参加しました。滋賀県出身といえども，なかなか実際に活躍する社会人にお会いしたり，改めてその文化・歴史を勉強したりする機会は貴重で，非常に勉強になるイベントでした。滋賀という場所は琵琶湖の印象しかない方も多いと思いますが，なかなか歴史が面白いので一端をご紹介したいと思います。まず，京都に都が来る前に大津に都が置かれました。百人一首の第一番を詠んだ天智天皇の時代です。それが現代の近江神宮でのクイーン戦，『ちはやふる』の世界につながります。その後，比叡山という宗教的権威と京都の天皇の権威から程近い場所に位置するため，宗教者が海外に留学して様々なものを持って帰り，「〇〇御用達」と言う形で権威づけられて文化を広める拠点になりました。例えば，日本茶発祥の地は比叡山の麓・坂本だと言われています。また，北の方に行けば北陸地方と同じような気候である一方，南に降れば瀬戸内海に似た温暖な気候であり多様性に富む地域です。日本の積雪深の記録（11m 82cm）は滋賀県の伊吹山で記録されています。さらに，京都から東に行く際には（北陸方面も，東海道方面も）必ず通る交通の要衝でもあり，例えば大津は門前町・宿場町・港町と多くの側面を持つ町でした。故に日本最古の合戦（壬申の乱）は瀬田川を舞台として行われ，天下人となる戦国武将は次々に近江に城を築きました（安土城，坂本城，長浜城，膳所城）。最近の話題では，一昨年直木賞を受賞した『塞王の楯』の舞台が大津城です。さらに，石田三成を筆頭に近江出身の戦国武将も多く活躍し，映画『関ヶ原』では，関ヶ原の戦いは，豊臣配下の近江派と尾張派の争いだったとする見方で描かれています。江戸時代になると全国各地で活躍する近江商人が生まれました（現代の高島屋，丸紅，伊藤忠などにも

つながります)。薩摩もゆかりがある北前船にも多く関わっており，松前で商いをする商人のうち半分ほどは近江商人だったとも言われています。ちなみに東京の日本橋は東海道の起点にあたる要衝ですが，大坂夏の陣で徳川方を支援した褒美として近江商人に与えられ，今でも高島屋やふとんの西川など，近江商人ゆかりの店々が軒を並べています。同時に，もともと海外からの卸として発展した薬屋も日本橋に多く，現在では多くの医薬系の拠点も集まる場所です。実は滋賀は医学とも関わりがあり，明治初期の日本医学会総会では，ドイツ人医師のベルツが「日本近代医学の始まり」として，信長が伊吹山の麓で始めさせた薬草園に言及したそうです。

日本の伝統芸能「香道」

サークルとしては3年生の頃から香道を習い始めました。日本の伝統芸能「三道」は茶道・華道・香道ですのでぜひお見知りおきを（圧倒的に知名度が低いですが)。茶道がお茶でお客様をもてなすのと同じように，香道は香木を焚いてお客様に香りを「聞いて」もらいもてなすものです。歴史は室町の侘び寂び文化まで遡ります。正倉院の蘭奢待を信長が切り取った話は有名ですが，幕末を描いた大河ドラマ『篤姫』や映画『燃えよ剣』でも香道のシーンが登場します。もともとは，直接感情に訴えかけられる匂いという感覚器は（医学的に）面白いのではないか，せっかくならばまずは日本の伝統芸能から学んでみよう，と始めたものでしたが，ついぞ医学的見地に立って分析することはなく終えてしまいました。コロナ禍以降はリモートにすることもできず，ほぼほぼ稽古をできず休眠状態となり，そのまま卒業してしまいました。が，無趣味ゆえに趣味を問われると香道と答えてしまっております。申し訳ありません。

論文執筆

5年生からは論文執筆に力を入れました。6年生の頭，ちょうど延期された東京オリンピックの開催直前に，「日本のワクチン接種が遅れている」という内容でランセットにレターを投稿しました。指導医であった医療ガバナンス研究所の谷本先生が一から十までアドバイスしてくださり，「ここ掘れわんわん」で（注：自分はお爺さんの方）で出来たレターだったのですが，東京五輪前という日本のコロナ対策が世界の注目を浴びる最初で最後のチャンスを掴めたのが幸いでした。レターが掲載されてから1ヶ月ほどして，カタールの放送局「アルジャジーラ」から取材のオファーが届きました。「明日のニュース番組で中継をつなぐので日本のコロナ事情を説明してほしい」という内容でしたが，運悪く外部病院実習中でした。自分の英語力で対応するためには徹夜せざるを得ませんでしたがするわけにはいかず，共著者の指導医の先生に代わりに出ていただきました。人生最初で最後のアルジャジーラ出演チャンスをみすみす逃した痛恨事でした。

同時に，福井県にあるオレンジホームケアクリニックで研究発信プロジェクトのインターンとして，原著論文にもチャレンジしておりました。何もわからないところからスタートでしたが，スタイルの整え方，編集部とのやりとりなど手取り足取り教えていただき勉強になりました。主に在宅診療における緊急時の対応をテーマに後方視的な症例ベースの研究でしたが，往診の代わりにビデオ通話（Facetime）を使用した症例のケースシリーズは，ちょうどコロナでオンライン診療に注目が集まっていたこともあり（研究対象の症例は全てコロナ前の話でしたが)，新聞でもその論文の内容に触れていただきました。在宅診療の特徴は，緊急時に医者や看護師と患者の間に物理的距離がかなりあることで，オンライン診療を真っ先に導入すべき環境だと思います。

ビデオ診療のケースシリーズを書く中では，訪問看護師の方々と合わせて在宅薬剤師の方々の重要性を強く実感しました。

そして異郷の鹿児島へ

以上のように無秩序にバラバラとした大学生活を送り，研修以降について明確なプランもなく研修先も悩みつついろんな病院の見学に回りました。1年生の頃からお世話になっていた医療ガバナンス研究所の上先生にご相談したところ，「周りに流されないように一人で異郷で研修するように」とご指導いただき，鹿児島に来ることとなりました。それまでに私は2回だけ来鹿しましたが，1回目の高校の修学旅行では市内の主な観光地を周り，2回目のコロナ禍直前の研究所の合宿では自顕流の体験や薩摩藩英国留学生記念館の見学などして，その歴史の豊かさには大いに惹かれるところがありました。3回目となった病院見学では，病院の真裏にあるアートホテルの予約を取り泊まったのですが，来てみると高校の修学旅行の時に泊まったまさにそのホテル（当時はレンブラントホテル）で驚きました。国試を終えてからは，鹿児島移住に向けた予習として，『田沼意次　百年早かった開国計画』『鹿児島県の近現代』『薩摩の秘剣』などを読み，映画『六月燈の三姉妹』・『半次郎』や大河ドラマ『西郷どん』を見ました。『薩摩の秘剣』で幕末にあれだけ薩摩藩が圧倒的な活躍を見せた理由の一つである野太刀自顕流や薩摩琵琶などを柱とする郷中教育を知り，『田沼意次…』を通じて江戸時代においてもその謀略を尽くしていた島津家の恐ろしさを痛感しました。『六月燈の三姉妹』は舞台が今村総合病院から程近く，下宿を探しに来たときに候補として舞台すぐ横のマンションを案内されて感動したのを覚えています。

特に地縁も血縁もない鹿児島での研修を開始しましたが，振り返れば様々なご縁に恵まれ，新たな友人も多くでき，また昔からの友人が遠方より来てくれて，充実した生活を送ることができています。多くの友人を作ることも鹿児島でのミッションの一つと思っておりますので，この文章を読んで興味を持ってくださった方は，ぜひご連絡いただけますと幸いです。

次号は，今村総合病院 大薮明典先生のご執筆です。

（編集委員会）